

30 森の ともだち

森の どうぶつたちは、みんな、なかよく たすけ合^あって、
楽し^{たの}しく くらして いました。

ある 日、この 森へ、きつねの コンキチが、
ひっこして きました。みんなは、新^{あた}しい ともだちが
ふえたので、大よろこびです。

ところが、コンキチは、とても
いじわるで、らんぼうものでした。
それで、森の どうぶつたちは、
コンキチを 見ると、みんな、
にげ出して しまうように
なりました。

ある日、遠^{とお}くの 山から、
おなかを すかした おおかみが、
この 森へ、やって きました。



どうぶつたちは、おおかみに 気が つくと、ぱっと、にげ出しました。

コンキチは、それを見ると、

(みんなは、また、ぼくを 見て にげ出したんだな。)

と 思い、切りかぶから ひよいと、とびおりました。

おおかみが、これを見のがす はずは ありません。

さっと、とびつくと、コンキチを、おさえこんで

しまいました。

コンキチは、びっくりしましたが、もう、

手おくれです。いくら もがいても、

にげられそうには ありません。

「たすけて くれ。」

と、むちゅうで さけびました。

すると、どうでしょう。いったん

にげ出した どうぶつたちが、

みんな、引きかえして

くるでは ありませんか。





そして、

「コンキチくんを たすける。」

と 言いながら、おおかみの まわりを、

ぐるぐると 回り^{まわ}はじめました。

おおかみは、びっくりして、^{おも}思わず 手を

ゆるめました。その すきに、コンキチは、

さっと にげ出しました。

おこった おおかみは、こんどは 近く^{ちか}に

いた うさぎの ピョンコに とびかかりま

した。どうぶつたちは、ピョンコを たすけ

ようと、ひとかたまりに なって、^{たいあ}おおかみに、体当たりしました。

さすがの おおかみも、これには かないません。ピョンコを はなし、

しぶしぶと、引き下^{ひきさ}がって いきました。

いっぽう、森の はずれまで にげて きた コンキチは、ふと 立ち止^{たど}ま

り ^{かんが}考えました。

「みんなは どう して いるだろう。もしかすると、おおかみに つかまっ

てしまったかも しれないぞ。」

そのうちに、みんなを のこして ひとり にげ出した ことが、とても
はずかしく なり、いそいで もとの 道^{みち}を もどりはじめました。

広場^{ひろば}まで 引^ひきかえして みると、みんなは、

けがをした ピョンコを かこんで、

一生^{いっしょう}けんめい 手^て当てを して いました。

コンキチは、みんなの そばに かけよると、

「ごめんよ。ごめんよ。」

と、言^いいながら、なき出して
しまいました。

かんが
考えよう
はな
話し合おう

● どうして コンキチは、にげ出した ことが はずかしく なったのでしょうか。

● 「ともだちって いいな」と 思^{おも}った ことは ありますか。それは どんな
ときでしょう。

